

第3回世界エンジニアリングデーに際して

本日は、第3回世界エンジニアリングデーシンポジウムに多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。日本工学会は、1879年（明治12年）に工部大学校の第1回卒業生23名によって創立された「工学会」が源となります。その後、我が国の工学の発展に伴い、分野ごとに個別の学会が設立されるのに伴って、1922年に個人会員制から学協会を会員とする体制に変更され、現在に至っております。現在は約100学協会により構成されております。日本工学会は、学協会の連合体組織であることを活かして、工学および工業の進歩発展を図ることを目的に活動しております。

また、日本工学会は、UNESCOの援助の下に1968年に設立された世界工学団体連盟（WFEO）に、1972年に日本学術会議とともに加盟が承認され、世界の工学コミュニティの一員としても活動を行ってきております。世界工学団体連盟には、約100ヶ国が加盟し、世界中の300万人のエンジニアを代表しています。UNESCOは、世界工学団体連盟（WFEO）が2018年に昨年創立50周年を迎えたことを契機に、エンジニアの活動を広く人々に認識され、あわせてSDGsの推進に貢献することをアピールする目的で創立日の3月4日を世界エンジニアリングデーとして制定しました。これを受けて、世界各国で記念行事が開催されることとなりました。今年で3年目を迎えます。

エンジニアリングデーを記念して、世界各国で様々なイベントが開催されます。私たちのイベントのそのひとつです。WFEOのホームページには世界各国のイベント情報が掲載されておりますのでご参照いただければと思います。24時間のライブイベントも開催されます。本年のWFEOのテーマは”Build back wiser, engineering the future”です。コロナ禍により多くを失いましたが、そこから賢く回復し、より良い未来に導くためのエンジニアリングの貢献をテーマに選んでいます。私たちのシンポジウムのメインテーマは昨年に引き続き「多様性と包摂性のある社会のための工学の未来」としました。WFEOの掲げるテーマと同様に、未来に貢献する工学をテーマにしています。その中で、第1部の「技術者の役割・未来」では、技術者ダイバシティに焦点を当てました。また、第2部の「未来を拓く工学」では、カーボンニュートラルに焦点を当てました。2つのテーマとも多様性と包摂性のある豊かな社会を築いていくための重要なテーマであると考えます。ご参加の皆様と一緒に記念シンポジウムを楽しみたいと思います。

最後になりますが、後援をいただきましたユネスコならびに日本ユネスコ国内委員会、日本学術会議、日本工学アカデミーはじめ、協賛いただきました日本工学会会員学協会、維持会員各社などの関係各位に篤く御礼申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

日本工学会会長 岸本喜久雄

2022年3月4日